

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 第7回
コメント一覧

『大草原の小さな家』

: 原題は“Little house on the Prairie”。1975年から82年にかけてNHKで放送された名作。

連作

Hesperus Classicsという素晴らしいシリーズがあります。
こぼサイトでDickensを検索するとずらりと連作(共作)ものが現われてきます。

教師

辰野隆というフランス文学の泰斗がおられました。教室で原書片手に朗々と訳をつけていかれる、弟子たちはすごい先生だな、と思っていたらテキストの余白にぎっしりと書き込みがあった、といいます。こうした下拵えをされた辰野先生の語る訳文だったら、ノートすればすてきな訳書になりますね。

failed in all

何でもない語句と思えますが、上手に訳せますか？

niece

アンブローズの父親から見るとナオミはnieceですね。

would turn out

このturn out、しっかり解釈しなければ。

Such a girl!

コリンズと一緒に叫びたいな！

the dairy

酪農文化から生まれた言葉で、いくつか訳語がありますが、なかなか上手に使えませんね。

we wonder already how we ever got on without her

うまく訳せずかな？ むずかしいや。

penetration

辞書をきちんと見なければ。

at the prospect of seeing Naomi

この語句がポイント。ここで読者の気をひいて次章に突入していきます。

句動詞

『英辞郎』の初版では「句動詞」という分類はなかったのではないかな。ぼくが知ったのはCobuildの対訳版に取り組んでいたときかな。‘Phrasal Verbs’という言葉が新鮮だったな！

考えを張り巡らせる人だった。

誤訳です。たしかに英和を見ると「思索」だの「憶測」が出てきます。株や先物取引に投資するのですが、この程度の語義は頭の中に入れていなければ。

埋葬するには不自由のないお金

これも誤訳

どんなふうにやっていくのか

これも駄目。

山師みたい

「山師」が出てくるまで、いろいろと考えたのかな。それとも閃いたのか。ここでは「投機をしては失敗していた男」ですから、「詐欺師」ではない。考えすぎだな。

いませんでした

アンブローズが現場に立ち会った話ではないですね。伝聞であることがそれとなく分かるように訳さないと。

あの人

もちろん「彼」でいいのだけど、死んでしまった人の悪口をいうようで気になるし、しかもナオミの父親のことだ。「彼」はないだろうーとアンブローズが考えただろうという藤岡さんのひとり合点。

イングランド

英国人、とってイングランド、これはおかしいな。

苦手なんです

こういう発想はいいな。姫もだいぶ自由に言葉が選べるようになってきたようですね。「参った」もいいよ。

不安

「不安」かな。強いて漢語にするなら「心配」だろうな。

でもナオミが姿を現したとき、不安はすっかり吹き飛ばされてしまいました。

その通り、間違っていない。でも、何というか、「説明的」だな。

いったいなんという女の子なのだ！
好い娘なのか悪い娘なのか？ 的からそれたな。

お
考えすぎの「お」。

僕達は今まで楽しく暮らしてこれたものかどうかと、もうすでに思い始めているんです！
せつかくここまで上手にこなしてきたのに、どうしたのかな？

娘
とくべつに「ルビ」をふっていないけど、もちろんここは「娘(こ)」と読ませるのでしょうか？ 翻訳しながらルビまで考えるようになると、「これでなければ！」という言葉選びになりますね。

藤岡訳：
読点が多かったかな。でもガタガタ馬車に揺られて、しかも、可愛い娘のこと話しているんだ、これもいいのでは。

「洞察力」
「洞察力」だったら普通はinsightかな。英米の著者が好きな言葉ですね。こ難しいことを言い出すと、discernment、insightがよく出てきますね。「洞察(力)」と漢語を使うのでこ難しいと思うのかも知れませんが。ぼくのお気に入りのCobuildを見ると、Discernment is the ability to judge which things of a particular kind are good and which are bad. = judgment とあります。何のことはない「判断力」。Cobuildはほんとにいい辞書ですね。

一度
「ひとたび」と読ませるのですね。ここは「いったん」の方が自然だな。

ナオミコールブルック
ナオミ・コールブルック

アンボワーズ
！！！！

創りだして
produceだから「創」の字は避けたいな。

最後
.....したら最後、という語法は、彼の癖を知っていて、その癖がまた現われてきたとき、に使いますね。それと、もちろん世間でよくある話し方でも、ここでは熟していない。

従妹

cousin＝従姉妹、だけど、最近は漢字を避けているようです。

かは並みはずれた洞察力がなくても容易にわかった

このように「かは.....なくても容易に」の発想は、どうかな、難しいと思われるかも。翻訳調なんですわね。

衝撃的だったか

「訳しすぎ」で「気取り訳」で鼻もちならないと叱られるかな。でも気分はこんなところ。

...

この記号は ... を二杯にした の方がいい。IMEで登録しておくといいですよ。

どんなふうやっていくのか

オカシイぞ。要再考だな。

僕達

「僕達」はもうだめ。「ぼく達」「ぼくたち」でしょうね。

思い始めている

「思い始める」という語法はないな。「～し始める、～し出す」で迷うようになると一人前。

儲け話を見つけては

上手いけど考えすぎ。

【この提案を真剣に考える】

推薦しないときも、その旨お伝えします。手をつけている作品がありますか？ 新刊の著作権フリー本だけが市場ではありませんよ。編集部宛てに「自己紹介」と翻訳する作者(作品)を教えてください。手順を案内します。